

「福島大学の誇り、キャンパスライフ活性化事業」

学務担当副学長 工藤 孝幾

キャンパスライフ活性化事業がスタートして今年で12年目になる。改めて振り返ると、いつの間にか長い歴史を持つ、いわば福島大学の伝統的事业の一つになったことに気付かされる。

この間、採択された企画の総件数は、今回の分も含めて実に59件、平均すれば毎年5件近くの事業がキャンパスの内外で展開されてきたことになる。それらによって、どれだけの人々が元気になり、勇気づけられてきたことだろう。「キャンパスライフの活性化と充実」という目的を掲げてはいるが、おそらく企画の半数以上は、むしろ地域を巻き込んだ、あるいは地域の活性化そのものを目的として企画された事業である。この事業の持つ広がりを感じないわけにはいかない。キャンパスライフ活性化事業は、今や福島大学の伝統であり誇りとなった。今回採択された事業もふくめ、これらの事業の企画・遂行に関わった多くの学生と、その活動を支えてくださった教職員の皆さんに、心からの感謝と敬意を表したい。

これまでの企画の中には、事業遂行の成果が、例えば作品や花壇などのように形に残るものもあるが、ほとんどの場合、成果は、例えば「元気」や「勇気」あるいは「感動」や「やる気」など、具体的な形になりにくいものばかりである。それらを少しでも形にして皆さんに提供し、この事業の意義を未来につなげようとするのがこの報告書である。目で確認することはできない、しかし確実に多くの人の心に残った成果の一端を、ぜひこの報告書から読み取っていただきたい。

今年度は、6件の応募があり、その中から4件が採択された。それらの内容の詳細は、報告書をご覧いただくとして、いくつかコメントを加えたい。

採択された4件は、企画の目的や内容、参加学生の属性や人数など、それぞれ実に様々である。ただ、いずれにも共通にいえることは、企画を実行するには様々なハードルがあり、それを乗り越えるには、仲間という組織の力が必要であるということである。それぞれの企画の報告内容から、そのことをぜひ感じ取ってほしい。この事業の目的はキャンパスや地域の活性化であるが、企画と実行に携わった学生のこうした経験それ自体、この事業に込められたもう一つの目的なのだと思う。

ぜひ報告しなければならないことがもう一つある。報告書の中にも記載されているが、「スタ☆ふくプロジェクト」は、若者の旅を促す取組として、昨年6月、観光庁から東北ブロック賞を受賞した。この企画の素晴らしさが外部からも評価されたことを、企画した学生とともに喜びたい。同時に、キャンパスライフ活性化事業としてこの企画を採択した私たちの目が節穴でなかったことも、ついでに喜びたいと思う。

最後に、もう1点触れたいことがある。今回の一つの特徴は、4件のうちの2件に現代教養コースの学生が関わっている点である。昼間の学生に比べ、キャンパスで過ごす時間に制約があるにもかかわらず、積極的にこの事業にチャレンジしてくれたことを私は評価したい。特に「夜間の未来を変えようプロジェクト」は、企画のプレゼンテーション段階から企画者たちの熱意が伝わってきて、意気に感ずるところがあった。

震災後の2年間、この事業に対する応募件数が減りやや心配したが、今年は震災前のレベルに戻りホッとしている。来年もまた、意欲的な企画が今年以上に多く寄せられることをこちらから期待している。

1. 事業目的

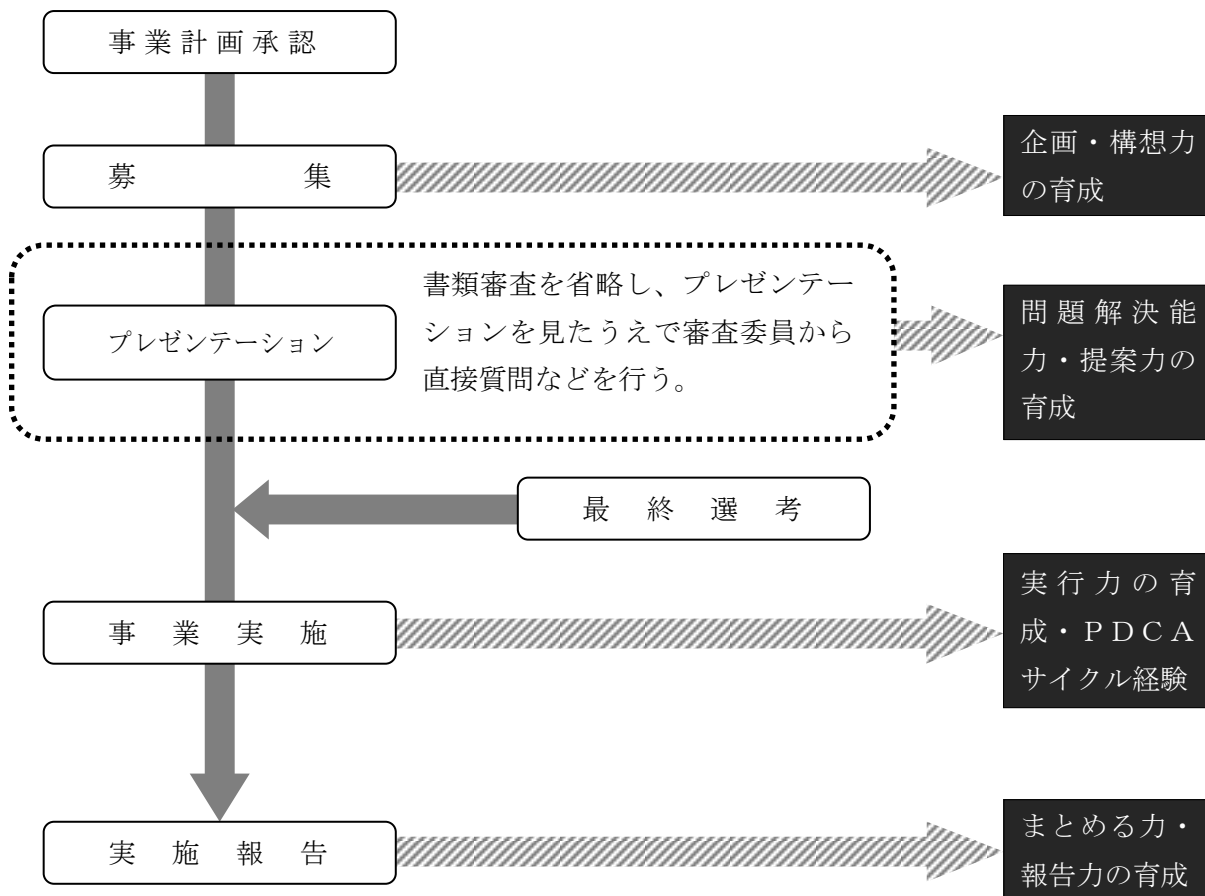
福島大学キャンパスライフの活性化・充実のため、本学の構成員に夢を与え、明日に向けての活力になるような企画・提案を学生から募集し、審査のうえ事業採択し実施する。

(想定される事業)

- ①キャンパス生活を快適にするための事業
- ②研究・製作・調査（卒業研究に関するものを除く）
- ③地域社会との文化的・社会的連携に寄与する事業
- ④福島大学のPRに関する出版、ビデオの作成等の事業
- ⑤国際交流に関する事業
- ⑥スポーツ・文化活動に関する事業
- ⑦ボランティア活動
- ⑧21世紀にふさわしいフェスティバル
- ⑨学生・教職員に夢を与えることができる事業

※その他キャンパス生活をより充実させる事業（課外活動紹介・大会応援など学生参加企画）等

2. 事業スキーム



3. 事業スケジュール

期 日	事 項	内 容 等	備 考
<input type="checkbox"/> H26.04.24.	学生生活委員会	事業計画等審議・了承	
<input type="checkbox"/> H26.04.24 ～ H26.05.16	募集期間	掲示板、電子掲示板、サークルBOX等へ配布・周知	
<input type="checkbox"/> H26.06.05 ～ H26.06.27	再募集期間	掲示板、電子掲示板、サークルBOX等へ配布・周知	
<input type="checkbox"/> H26.05.21	プレゼンテーション	応募者1団体20分程度 終了後、仮審査	
<input type="checkbox"/> H26.05.21 ～ H26.05.28	最終審査	採択事業の決定	
<input type="checkbox"/> H26.06.02	採択結果発表	掲示等	
<input type="checkbox"/> H26.06.02 ～ H26.12.26	採択事業の実施 予算執行	採択プロジェクトについて、各々事業を実施 予算執行は事前相談のうえ行う	
<input type="checkbox"/> H26.11.01 ～ H26.11.02	大学祭一般公開出展	構成メンバーで展示ブースの運営を行い、プロジェクト内容を公表	
<input type="checkbox"/> H27.01.07	実施報告書提出期限	事業実施後、報告書提出	

4. 募集

【募集期間】 平成26年4月24日(月)～5月16日(金)(再募集:6月5日(金)～6月27日(金))

- 【募集広報】
- ①学内掲示
 - ②電子掲示板
 - ③サークルボックスへのDM
 - ④教務課・学生課による窓口配布
 - ⑤大学および学生課ホームページへの掲載 等

【申請条件】 本学の学類学生(現代教養コース学生含む)及び大学院生で個人又は団体(サークルでも可)。ただし、1個人・1団体で1件の応募に限定。
※非正規生も応募可。

【申請方法】 所定の用紙により、期間内に学生課に提出。

【申請件数】 3件(再募集2件)

平成26年度 キャンパスライフ活性化事業

大募集

めざせ!! 敏腕プロデューサー

大学生生活をもっと楽しくするためのアイデアを募集します。

募集期間
H26.4/24(木)～5/16(金)

応募方法
学生課・教務課にて所定の申請用紙を受け取り、上記受付期間内に必要書類を揃えて学生課に提出してください。
※現代教養コース生のみ教務課に提出可。

お問い合わせ
学生課 TEL:024-548-8054

応募
プレゼンテーション
選考
事業実施
実施報告

掲示による募集

平成26年度 キャンパスライフ活性化事業

めざせ!! 敏腕プロデューサー

大学生生活をもっと楽しくするための
アイデアを募集します!



電子掲示板による募集

5. 審査

【審査委員】	11名
（構成）	・副学長（学務担当） 1名
	・各学類学生生活委員 8名（4学類2名ずつ）
	・学生課長 1名
	・学生課副課長 1名

<プレゼンテーション・仮審査>

【実施日時】	平成25年5月22日（水）午後1時30分～
【実施場所】	福島大学 事務局棟4階「大会議室」
【実施内容】	①申請団体によるプレゼンテーション（1団体約20分） ②質疑応答 ③終了後、出席審査委員による仮審査
【仮審査】	①企画によっては条件付き。沿えない場合は不採択。 ②計画修正による再提案で「追加採択」も可。 ③以上を踏まえて、各委員が最終審査を行う。

【プレゼンテーションの様子】



熱心に話を聞く審査委員



スライドを用いて分かりやすく提案

<最終審査>

【最終審査方法】 キャンパスライフ活性化事業趣旨との整合性、独創性・魅力、実現性・計画性、事業効果等を考慮し、15点満点で各審査委員が採点。

- 〔 ①合計点数が満点の1/2に満たない事業については不採択。
②予算枠内で合計点数の高い企画から順に採択。 〕

【最終審査結果】 採択件数：1件

- ①平成26年度は当初4事業応募があったが採択されず再募集した。
- ②配分予算額算定にあたり、認められた。
- ③その他、必要に応じて、プロジェクトには事業実施にあたっての条件等を付した。

【採択事業一覧】 ①福島大学生が 探険！ 発見！ アートの旅

※事業詳細は「8. プロジェクト別実施報告」(p7～)を参照。

6. 福大祭での一般公開

- 【出展期間】 平成 26 年 11 月 1 日（土）～2 日（日）
- 【出展場所】 福島大学 S 講義棟「S33 教室」
- 【出展内容】 各プロジェクトの実施状況を紹介するブースを設置。実施報告や中間報告、本番に向けての PR 活動を行うなど、本事業を学内外にアピールした。
- 【入場者数】 約 200 名
- 【PR チラシ】

平成 26 年度『キャンパスライフ活性化事業』



めざせ！！ 敏腕プロデューサー

大学生活をもっと楽しくするための
「学生発案企画」を紹介しています

11 / 1 • **2**

土 • **日**

9:00～16:00 S33教室

ご自由に
ご覧ください

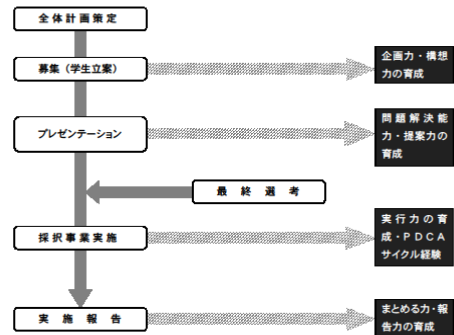
(担当)
学生課

キャンパスライフ活性化事業って？

福島大学のキャンパスライフ活性化につながるような『学生発案企画』を募集し、審査によって採択された事業を大学が応援しています。企画からプレゼンテーション、事業実施、報告書のまとめなど、普段の学習だけでは経験できない“総合的な学び”につながる大変ユニークな事業です。

大学は物品購入等にかかる資金援助や大学ホームページへの掲載などを通して支援を行い、毎年 5 件程度のアイデア事業が実施されています。25 年度は 4 件採択されました。

事業スキーム

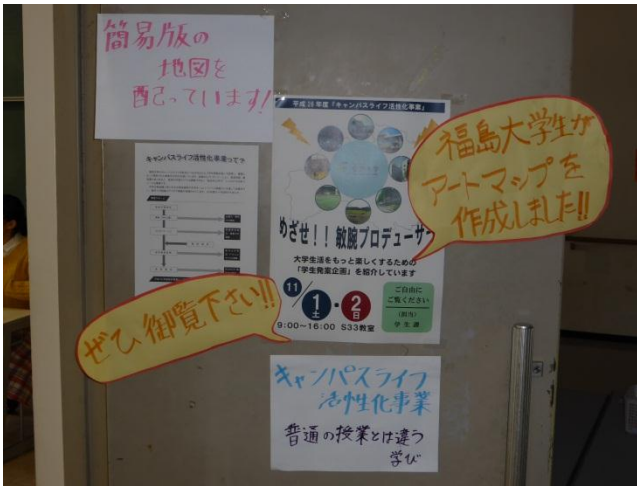


平成 26 年度採択事業のご紹介 詳しくはブースをご覧ください！

福島大学生が探検！発見！アートの旅



【出展ブース】



会場内の様子①



会場内の様子②



会場内の様子③



会場内の様子④



会場内の様子⑤



会場内の様子⑥

7. 採択プロジェクト実施報告

- プロジェクト名称 : 福島大学生が 探険! 発見! アートの旅
- 代表者氏名 : 人間発達文化学類 2年 佐藤 那恵
- 構成員 : 人間発達文化学類生 4名
人間発達文化研究科 1名
- 事業の概要 : 福島県の会津地方(喜多方)の文化(寺院や蔵などの建築物や伝統的な遺跡、美術、食文化)を福島大学で美術を学ぶ視点でイラストも含めて制作したいと思い、身近に芸術があることを意識してもらうためにアートマップを作成するという活動を会津地方中心に行った。
まずは地元の人しか知らないような場所を調査するために湯川村では学校でのアンケート調査を行った。そして実際に訪れることでしか得られない発見をするために湯川村と喜多方市での現地調査を行った。マップの対象を小学生、中学生とし、見て楽しそうなもので、身近にこんなものがあるという驚きをもってもらい、親しみやすいものにした。最終的には小学校、
: 中学校及び公共施設や会社、マップに協力してくださった店舗などに配布した。
- 事業の目的
- ① 福島大学生が地域の文化に触れるきっかけをつくり、伝統的な文化と出会うこと
 - ② 子ども達が地域を考える、人と人、地域文化との関係の中で、心を豊かに育む機会をつくること
 - ③ 芸術文化の視点からのアピールで、地域の活性化につなげる
- 主な事業日程
- | | | |
|-------|-----|----------------------|
| 2014年 | 9月 | アンケート実施
現地調査 |
| | 9月 | アートマップ作成開始 |
| | 11月 | 福島大学祭 |
| 2015年 | 1月 | アートマップ完成
アートマップ配布 |
- 広報活動 : チラシ200部(簡略版アートマップ100部を含む)
福島大学祭にてブースを設置して概要の説明と行った。

■事業効果
(定量的効果)

:

① マップの配布先

学校や公共施設、会社、マップに協力してくださった店舗など合計 50 ヶ所に配布した。そしてより芸術が身近にあることを宣伝していくことによって、自分の身近にも芸術があるのかもしれないということに気づくきっかけが生まれると考えられる。

② 学祭での入場者数

学祭では 164 人の来場者数が訪れた。「身近に芸術がある」という点に着目したマップに注目し、美術館などにあるような芸術との違いに興味を持った人も現れた。

(定性的効果)

① 地域に対して

小学生、中学生を対象とするマップを作成ということで子ども達の目線とはどのようなものなのか、また子どもならではの見方があるのではないのかと思い実際に学校でアンケートを取ることでより対象に近づいたマップを考える事ができた。またこのような形で学校に関わることで、自分の身近には何があるのかということ子ども達や先生方などが考えるきっかけにもなった。

実際に現地で調査をすることによって写真などではわからない学生ならではの発見があったり、地域の方から話を聞いたり地域と関わられた。

② 大学・学生に対して

自ら表現し、作品をつくるという視点のみではなく、芸術をもっと身近に感じてもらうための広報としての活動の可能性を見出せた。福島大学がこの事業を行っているということアピールすることによって大学の宣伝に繋げることができた。

■今後の展望

:

今回の取り組みを機にできた地域との繋がりを生かし、アートマップ活動を地域と寄り添いながら積極的に取り組んでいくことができると考えている。

福島大学生が取り組むことによって大学と地域との連携を深め、学生が地域に貢献する機会が増える可能性がある。

また、身近に芸術があるということを広めていくことによって、日常に芸術を感じ個人の感性が育つこと、つまり心が豊かになる可能性を提示していくことで世間一般的な芸術に対す

るイメージを変えていく見込みがある。

■感想

： 今回の事業は初めての取り組みだったので様々なことに戸惑うことがあった。アートマップの作成は単に自分達のみが興味を持てばよいものではなく、地域の方々にいかに興味を持ってもらうようなものを作れるのかをとっても考えさせられた。この点についてはもっと地域との関わりを持って取り組みたかった。

また、マップの配布する時期も考えるべきだった。今回はマップの作成に時間がかかってしまったため、1月に配布を行ったが、マップを見てすぐに行くことができる10月や11月ぐらいに配布した方がよかった。

この事業を通して、芸術活動のあり方を学生がもっと意識すべきだと感じた。そうすれば、大学と地域の橋渡しとして芸術活動が行える機会が増え、学生の社会貢献の場を増やす可能性が見えてくると思った。